

## 色彩カテゴリーと色の言語化が色記憶に及ぼす影響

片平 里緒

呈示された色の記憶を色記憶という。色記憶に関して、これまで様々な研究が行われてきたが、その全貌は未だ明らかにされていない。本研究では、特定の対象物の色として想起される記憶色、色空間を色名ごとに分割した領域を表す色彩カテゴリー、そして色の記憶方略という三つの視点から色記憶の性質を解明することを目的とし、二つの実験を行った。一つ目の実験では、色記憶と記憶色の関連、及びその時間的変化を明らかにするため、色記憶を行った後時間間隔を空けた3度の色再生を行い、その色記憶の成績を調査した。結果、記憶色は色記憶に影響を及ぼし、特に色相は保存されたが、彩度・明度は上昇が見られた。また、色記憶の時間的変化については四つの特徴があると結論づけた。また二つ目の実験では、色彩カテゴリーと色記憶の関連を検討するため、色記憶の再生課題とフォーカル色（各色彩カテゴリーを代表する色のこと）の再生課題を行い、色空間を網羅した24種類の基準刺激の色記憶の移行と、基準刺激の色をどのような色彩カテゴリーへ分類したかについて調査した。結果から、色記憶は色彩カテゴリーの影響を受けフォーカル色の方向へ移行する傾向が明らかとなり、加えて基準刺激の色の系統によりその影響の大きさが異なることが示された。また、本実験では同時に、色の言語化と色記憶の関連を検討するため、基準刺激呈示中に行う命名行為の違いによって実験参加者を3群に分け、各群の色記憶成績を調査し、比較を行った。その結果、色の言語化は色記憶に影響を及ぼし、色記憶の促進にも妨害にもなりうることが明らかとなった。加えて、言語化しやすい色は色記憶がより正確であることが示された。(応用認知心理学)